
ヨロイ冒険記～仲間とヨロイと伝説と～

シューパズ&レッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヨロイ冒険記〜仲間とヨロイと伝説と〜

【Nコード】

N6402I

【作者名】

シューパズ&レッド

【あらすじ】

冒険者のライトとロビンソンは二年間の旅をして村に帰ってきたところだった。しかし村では魔王が荒らしに荒していた。なんとか追い返すことはできたものの村はひどいありさま。その後村長につれてかれてほこらに案内された。そこにはいろいろな防具があった。それが原因で二人は魔王討伐をすることになる。笑いあり涙ありの長編(?) 友達と二人で考えたファンタジー今ここに始動!

序章 ある者たちの記録

ここに一つの本がある……………

この本にはある者たちの記録が残されている……………

それは、伝説の“ヨロイ”を扱った者たち……………

これを読めばあなたも否応なくこの世界に入り込むでしょう……

そして知ってください……

この世界がなぜ存在するかを……

そしてなにより……この者たちの行いを……

それをすべて知った時あなたは考えるでしょう……

この世界………

自分の意味を………

では開いてみましょう………

物語が始まりますよ………

第一章 勇者の武具で旅の始まり（前書き）

どうもシューパズ&レッドです

このたびは合作小説を書かせてもらいます

ストーリーは友達が考えたんです

ではどうぞ

第一章 勇者の武具で旅の始まり

ここは平原

草も適度に生えており、地面もしっかりとしている

その平原を歩く二人の青年がいる……………

一人は金髪で短髪の髪型で、整った顔立ちだが少し顔がトロンとしている

背も高く、体もスマート

もう一人は茶色でほどほどに長い髪形で、目がつりあがっていて怖いイケメン的な感じ（何背は普通位で、まあまあ

二人とも共通しているのが、18歳くらいで恰好がぼろぼろであること

実を言うと二人は二年間の旅から帰ってきたのだ

金髪はライト、茶髪はロビンソンという

二人はうきうき気分に戻ってきた

ついに自分たちの村に帰れると……………

しかし現実には甘くない……………

ライト「な……なんじゃごりゃあ！」

村は荒れていた
家は崩れて、草木は枯れはてていた……いやそこまでじゃなかつたかも

人気はなくてただ一つだけいたのは鬼の仮面をつけ、黒いロープで身を包んだ怪しいものだけだった

???「ほおう………まだ生き残りがいたか……」

ロビンソン「お前が町を襲ったのか！」

ロビンソンは二年間使っていない鉄砲を構えた
なぜ二年間使っていないかったのは謎である

???「我が名はまお………」

謎の人物が言い終わる前にロビンソンは、鉄砲を連射し始めた
それは無駄にあたりにとびちり非常に危ない

???「まてやまじで！もう帰る！」

そういうと謎の人物は帰って行った

ライト「無駄に危なかったな……………俺全身かすめたぞ」

ロビンソン「よく無事だったな！」

よく見るとライトは全身血だらけである

しかしかすっただけなので大した怪我ではない

すると誰かが寄ってくる

村長だった

村長「おーい、ライト〜ロビンソン〜！」

ライト「村長じゃないですか！お久しぶりです」

ライトは軽く礼をした

ロビンソン「村長、これはどういう状況ですか？」

村長「ああ、さっきまで魔王と名乗る人物がこの村を襲撃して破壊した。村人はすぐに別の村に避難したので全員無事だ」

ライト「ああ、よかった」

ライトはほっと胸を下す

村長「それよりついてきてくれ！」

村長は二人をつれて歩いた

村の少し外れのほう

そこは祠だった

中は薄暗く、木の壁は傷んでいた

中のほうはよく見えなかつたが村長がたいまつに火をともしると中のほうまでよく見えるようになった

奥に何かがあるようだった……

ライト「あれは……鎧……ですか？」

そこにはいくつかの防具があつた

鎧に武道着、そして服のようなもの

どれもほこりが被っており、何年も放置されたものとわかる
しかしどれも見たことがない形ばかりだった

村長「あれらは伝説の“ヨロイ”じゃ。武器と防具がセットになっており、選ばれし者しか使えん。選ばれし者を見つけた時それらは光るといわれているが……」

村長の話を見捨てるかのごとく鎧が光り出す

それは瞬間的に動きそして、ライトに装備された

ライトはそのことについていけずポカンとしている

村長もロビンソンも驚いていた

村長に口を開いたのは村長だった

村長「おお、それは勇者の“ヨロイ”じゃ。ヨロイがお主を認めたのじゃ！」

その時、鎧の胸の部分が光り、剣が出現した

ライトははっとしてそれを握った

その持ち手は暖かく、心が安らぐ感じがするとライトは思う

剣は鎧の後ろに出現した鞘におさめられた

ライト「でも伝説とか言うけどこの鎧、傷だらけだし剣も錆びびてるんですけど……さっきは光ってたから期待したのに」

村長「まあしょうがないじゃろう、長年放置されてたんじゃし。それよりほかの“ヨロイ”を身につけるものを探し、魔王を倒すのじゃー！」

村長は叫んだ

.....

シーンとなる

ライト「あのう、俺たちは……」

ロビンソン「魔王を倒しに行きます」

ライト「えー、ていうかロビンソンいたんだ」

ロビンソン「あっ？なんだどゴラ？」

ロビンソンは鉄砲をライトに構える

ライトに冷や汗が出る

ライト「あっ！こいつ鉄砲もったらやばい！前この村を破壊しかけたんだっけ……しかたない……」

ライトは鎧の下から木刀を出した

これは、ライトが以前に何かのために作ったもの
そして思いつきり殴りつける

ロビンソンは悲痛な声を出して倒れる

ライト「危機一髪だった……」

村長「んじゃあそういうことで旅をするのじゃ」

ライトは残りの二つの“ヨロイ”を荷物に入れた
かなり荷物がでかくなり、重くなる

さらに倒れたロビンソンまでひきづることに
かなりの重労働となったライト

祠を出るのもかなり疲れてしまった

そして旅は始まった……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6402i/>

ヨロイ冒険記～仲間とヨロイと伝説と～

2010年10月28日04時14分発行